

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒の学び直しと日本語支援を充実させ、学ぶことに苦手意識を持つ生徒の生きる力の基礎となる能力の習得を目指す。 ②生徒の実情やニーズを踏まえた多様な学習機会の整備を図るため、ICTの活用を含めた環境整備、外部連携を推進する。 ③教科横断的な視点に立ち、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力を育成する。	①②生徒一人ひとりの実情に応じたより効果的な指導の確立を目指すとともに、社会的ニーズを踏まえ、多様な学習機会の整備を進める。 ③教科横断的な視点に立ち、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力を育成する。	①課題のある生徒に対しての効果的な指導法について検討するべく、学校設定科目「ホープ」で得られた生徒情報を職員全体で共有する。 ②生徒が主体的に学習を深めていくようにするため、ICTをどのように利用するかについて「ホープ」の中での取り組みを進める。 ③教科横断的な視点に立ち言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の資質・能力を育成するために、総合的な探究の時間を充実させ、その成果を発表する場である「課題探究発表会」を継続する。	①学校設定科目「ホープ」で得られた生徒情報を職員全体で共有し、効果的な指導ができたか。 ②ICTの利用について「ホープ」の中での取り組みが効果的な指導につながったか。 ③総合的な探究の時間で教科横断的な視点を持った取り組みができたか。また、生徒は「課題探究発表会」での発表に向けて前向きに取り組めたか。	①各生徒の学習状況の配慮事項について情報共有する時間を、新たに毎月の職員会議後に設定した。「ホープ」等で見受けられた学習に困難を抱える生徒の情報を職員全体で共有し、他教科での指導に繋げることができた。 ②「ホープ」でPCの基本的な使い方を取り上げたことで、他教科でもICTを効果的に活用しやすくなった。 ③総合的な探究の時間で教科横断的な活動に取り組んだ。生徒は「課題探究発表会」での発表に向けて意欲的に取り組み、代表生徒が校外の発表会で高く評価されるなどの結果を残した。	①学習に困難を抱える生徒について情報共有に努め、職員全体での支援を強化する。 ②各教科でICTの活用を一層進めるため、「ホープ」での取組を強化する。 ②今年度新たに計画・実施した「ICTを活用した個別最適で協働的な学びを意識した授業」というテーマでの研究授業を次年度も実施し、生徒の実情を踏まえた授業作りに繋げる。 ③総合的な探究の時間で教科横断的な活動を継続する。また、今年度の「課題探究発表会」の成果を次年度以降の生徒にも伝え、生徒の意欲を引き出す。	・研究授業テーマがとても良いと思います。今後は「目標とする生徒の姿」を明らかにしていくことを期待しております。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT活用や少人数指導、習熟度別授業を推進しています。 ・基礎学力の定着に加え、ドレスのデザイン等、創作活動を通じて、個々の興味・関心を伸ばす教育を実践している点が評価できます。	①学習に困難を抱える生徒について、職員会議等で情報共有を実施することができた。生徒の特性を意識した一貫した支援が教科間でも実施される必要がある。 ②校内研究授業では、事前協議会や研究協議会を通して教員一人一人が授業改善について主体的に取り組んだ。ただ、研究授業後の職員アンケートの集約などがされておらず、次年度への継続性が課題といえる。 ③総合的な探究の時間では、より教科横断的な活動を意識し、複数の教員で指導する必要がある。	①学習に困難を抱える生徒について情報共有をするだけではなく、ケース会議や授業の相互観察を実施するなど、より具体的な支援について教科を超えて議論する必要がある。 ②校内研究授業を継続的に実施し、育てたい生徒像を意識して、テーマ設定をする必要がある。 ③総合的な探究の時間の探究活動には複数の教員で生徒を指導し、教科横断的な視点での研究を奨励する体制づくりが必要である。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒一人ひとりの抱える課題を踏まえたきめ細かな生活指導と相談体制を充実させる。 ②部活動を充実させ、生徒が有能感を感じられる取組を進め、また行事等においても生徒の主体的な活動を支援する。	①生徒の現状や課題の把握と支援方法について、全教員で情報共有を図り、実情に即した支援を行いながら生徒の自立を目指す。また、スクール・カウンセラー(SC)やスクール・ソーシャル・ワーカー(SSW)との連携及び組織的・計画的な校内体制を確立する。 ②部活動・行事等の活性化を図るため、限られた時間の範囲で、コミュニケーションを広げ、有能感と自己肯定感を得られるよう、内容と指導方法の工夫をする。	①毎月の会議等において、生徒の現状と課題、支援方法等を全体共有する。また、校内研修会等を活用し生徒一人一人の理解を深め指導に活かす。 ①きめ細かな生活指導と充実した個別相談を行い、生徒の困り感への早期対応と問題行動の未然防止に努める。 ①各種掲示物とICTを活用し、生活・健康・安全・食育等についての情報発信と健康上・指導上の問題等の未然防止に繋げる。 ①食堂の利用実態の把握と利用率向上、食育指導の充実を図る。 ②部活動・行事等の時間の確保と部活動週間等を活用し、限られた時間内で充実した活動内容の工夫と活性化を図る。	①SCやSSWと計画的かつ迅速に連携し、学年会や全体会議等で情報を共有して、きめ細かな指導や生活支援により、生徒の課題解決に繋げることができたか。 ①全生徒への情報発信を積極的に行い、学校生活や健康上の問題、生徒指導上の問題等を未然に防ぐことができたか。 ①食堂利用の実態を把握し、利用率向上と食育指導に繋がれたか。 ②限られた活動時間を有効活用し、部活動・行事等がより活性化し、生徒が参加しやすい状況を作れたか、心の充実度や達成感が増したか。	①毎月の情報共有を継続し、長期的な視野を持ちSC・SSW、関係職員と連携して生徒を支援し、安心・安全な学校生活に繋がれた。 ①いじめアンケートやサポートドックの結果に基づき迅速な面談等を実施し、問題解決に努めた。現場の課題に即した人権研修を実施し全職員へ発信した。また、生徒への健康情報の提供や相談機関等の周知を行った。 ①食堂の利用状況の把握と環境整備が出来た。また、食育推進のため利用促進案内とメニューの連絡を随時行い、生徒の食堂利用拡大に繋がれた。 ②放課後と部活動週間等の限られた時間を活用し、生徒の心身の成長に繋がる指導をし、各大会、芸術祭や作品展等に参加し、今後の活動意欲に繋がれた。	①様々な困難を抱えた生徒の課題解決に向けて、今後も継続して職員全体での情報共有やSC・SSW、外部機関との連携を継続し、校内支援体制の周知をする必要がある。 ①日頃から生徒の不安や悩みに対して丁寧な現場の課題に即したSC・SSWとの協働を図り、今後も本校の生徒の実態に即した研修等の実施や、課題解決に向けての支援方法の共有を図る必要がある。 ①夜間の学習生活における健康課題を意識し、今後も食堂活用を含め、心身の健康維持の具体的支援を探る必要がある。 ②生徒の自発的な活動と、心身の発達を促すことが出来るよう、各部の活性化を図る必要がある。	・自己肯定感を育むためには、全生徒を対象とした学校行事の活性化が有効です。年間計画に位置付けている「生徒会行事」の効果を再検証されることを期待しております。 ・多様な課題を抱える生徒に対し、関係機関やスクールカウンセラー等と連携した手厚い個別支援を行っている様子がよくわかりました。 ・部活動や行事等の主体的な活動を奨励し、成功体験を通じて自己肯定感や自信を育む指導を今後も継続していただきたいです。	①生徒情報共有やSC/SSWとの連携、いじめアンケートやサポートドックの結果によるプッシュ型面談など、問題解決に努めた。より支援を充実させるために校内の支援体制や手段を職員に周知する必要がある。 ①食育推進のため利用促進案内とメニューの連絡を随時行い、生徒の食堂利用拡大に繋がれた。食堂を活用し心身の健康維持の具体的支援や食育指導の手段を探る必要がある。 ②部活動や行事等を通して生徒の心身の成長を促した。生徒のより主体的な活動を奨励し、部活動や行事の活性化を図る必要がある。	①教育相談担当者や教育相談コーディネーターを中心に効果的で実情に根差した校内の支援体制を構築・周知する必要がある。 ①食育推進のため、生徒支援グループや養護教諭が中心となって具体的な食育指導の計画を立て、実施する必要がある。 ②部活動や学校行事を通して、生徒がより主体的に参加したり、多学年で交流する場面を増やし、より多様な人間関係を構築する経験を提供する必要がある。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりの自己実現を目指し、教育活動全体を通したキャリア教育を推進し、4年間を見通したキャリア教育を実現する。 ②進路情報の提供について外部との連携を図り、内容を充実させる。	①4年間を見通したキャリア支援プログラムを策定し、グループ、学年、教科、外部機関が連携し、組織的かつ継続的に、学校全体で生徒のキャリア支援を推進する。 ②進路選択における情報を提供を外部と連携し効果的に行う。	①4年間を見通した進路指導を組織的かつ継続的に推進するためのキャリア支援プログラムを策定する。 ①個人面談、授業やLHR等を利用し、個々の生徒に配慮した支援を行う。 ①「ハンディ進路指導室」を活用した情報提供等、効果的な進路指導を推進する。 ②生徒のキャリア意識を高めるために、進路ガイダンス、就職セミナー等をハローワークやキャリアコンサルタントなど外部機関と連携して実施する。	①4年間を見通したキャリア支援プログラムを策定できたか。 ①進路ガイダンス、進路なんでも相談室、個人面談等を効果的に実施することで、生徒のキャリア意識を高めることができたか。 ①進級・卒業・進路決定に向けて生徒が主体的に考え、行動し、望んだ進路を実現できたか。 ②情報提供等の進路支援で、生徒が自ら進路活動に取り組むようになり、各自に合った進路情報や自分の進路を主体的に考えることができた。	①進路ガイダンス年2回実施、進路なんでも相談室、アルバイトセミナー等を実施し、在校生・卒業生のキャリア意識を高めることができた。 ①担任による個人面談や進路何でも相談室を通して、進路について考える機会を増やすことや、カウンセリング機能を果たした。 ①ハンディ進路指導室を活用して求人票のデジタル化と活用を推進した。 ②各学年において、教育事業会社のコンテンツを利用して、総合的な探究の時間の充実を図った。	①進路指導に関するプログラムを体系化することで充実を図ることができた。 ①担任を含めた教員サイドに対する進路指導研修などを企画できると良い。 ①就職または進学も決めずに卒業していく生徒を減らすために、入学期からの進路指導の継続が必要である。 ②企業と接する機会や経験が乏しい生徒が多い印象である。したがって、座学に留まるだけでなく、インターンシップなど外に開けた実践的・体験的なプログラムを企画していくことで、生徒への確かな就労感を育成していく必要がある。	・定時制に通う生徒のキャリア形成には、県生活体験発表会での体験談を後輩に聞かせたり、卒業生を招聘して3年次生に聞かせる等、先輩の体験や助言に触れさせる機会を設けるというのはいかがでしょう。 ・キャリア支援グループを核に、個別面談や外部講師によるセミナーを充実させています。自己肯定感の低さが課題ですが、きめ細かな指導の結果、16名中8名の進路決定(進学・就職各4名)を実現しました。	①複数回の進路ガイダンスと進路なんでも相談室を通して、生徒の進路に必要な情報を提供することができた。これらの支援を一連のプログラムとして体系化する必要がある。 ①ハンディー進路相談室を活用し、求人票のデジタル化を継続している。実際の生徒の活用状況を検証する必要がある。 ②外部機関による進路ガイダンスは実施したが、企業や外界との接触機会が乏しい。	①4年間を見通した進路支援を体系化し、生徒・職員に周知する必要がある。 ①ハンディー進路相談室の利用状況をアンケート等で把握し、より有効な活用方法を提案する必要がある。 ②インターンシップなど、生徒が実際の就職活動を始める前の段階で実感をもって企業や外界と関わる機会を提供する必要がある。
4	地域等との協働	①保護者や地域と協働・連携した教育活動を展開し、信頼される学校づくりを行う。 ②教科やキャリア教育の観点で協働を図り。地域に根ざした学校を目指す。	①地域貢献活動・ボランティアや文化祭等の学校行事を活性化し、保護者や地域(地元商店街等含む)、関係機関の方々との連携を深める。また、ホームページ等による情報発信や広報活動を積極的に行い、希望ヶ丘高校定時制の特色や良さをより正確に本校を理解してもらう。 ②教科やキャリア教育における地域との協働についての施策を検討する。	①地域貢献活動や文化祭等の学校行事を通して、本校と外部の関係機関、地域、保護者との連携を深め、信頼されて活気のある学校づくりを行う。 ①ホームページの定期的な更新を積極的に行い、広報活動を効果的に推進する。 ②総合的な探究の時間や進路活動の場面において、地域との協働の方法を検討または実施する。	①地域貢献活動や文化祭への参加者が増え、学校行事が活性化し、本校と外部の関係機関、地域、保護者・生徒との信頼関係が深まり、信頼される学校づくりにつながったか。 ①校内外での広報活動やホームページ等での情報発信を積極的に行うことで、希望ヶ丘高校定時制の良さをより正確に理解してもらうことができたか。 ②地域との関係を構築しつつ、次年度に繋げられる施策を検討または実施できたか。	①地域貢献活動では、全校生徒、職員、地域の警察及び青少年指導員、PTAの方々と共に地域の美化活動を行い、安全な通学路確保と地域交流を深められた。 また、文化祭では、保護者及び地域の方々と生徒との交流が多数見られ、活気があり、信頼される学校づくりに繋がった。 ①ホームページの更新頻度を上げ、充実させた。また、学校見学の回数を増やし学校説明会の内容を充実させたことで本校定時制についてのより正確な理解を促した。 ②教科やキャリア教育における地域との連携は実施できなかった。	①今後も地域貢献活動を継続的に実施するために、警察及び青少年指導員及びPTAの方に協力要請をしていきたい。また、生徒会を中心に全校生徒の参加を呼びかけ、地域との連携の大切さを知り取り組みを絶やさず、今後も信頼される学校づくりに繋げていく。 ①定時制の特色を正確に理解してもらうため、ホームページの情報発信をよりタイムリーに行う。 ②総合探究の中で、地域との協働の可能性を模索する。	・活動時間が夜間だからこそ得られる地域からの協力があります。例えば、避難訓練に自治会からご参加いただき、暗闇での安全な避難を見守っていただくのはいかがでしょうか。地域の方にとっても夜間の災害を想定する機会になると思います。 ・地域行事への参加や清掃活動に加え、小中学校との連携も模索しており、生徒が多様な大人と関わり活動の場を広げる工夫を継続していただきたいです。	①地域貢献活動を通して、地域の方々と共に地域美化に貢献することができた。災害時を想定し、地域との信頼関係を構築する必要がある。 ①ホームページの更新頻度を上げ、内容が充実した。学校の特色をよりわかりやすく情報発信する必要がある。 ②教科やキャリア教育における地域との連携を模索する必要がある。	①校内の避難訓練に地域の方々に参加していただくなど、災害時を意識した地域との交流が必要である。 ①ホームページの内容をさらに充実させ、本校の特色をわかりやすく掲載する必要がある。 ②教科やキャリア教育に地域の商店街にご協力いただくなど、具体的に地域との連携を計画し始める必要がある。
5	学校管理 学校運営	①生徒にとって安全・安心な学校づくりを推進するとともに、職員一人ひとりが事故・不祥事防止に積極的に取り組む。 ②業務改善のために業務のスリム化やデータ管理などを推進する。	①生徒一人ひとりが、法律を遵守し、交通安全や防犯、防災等に高い意識をもって高校生活を過ごすことができるように、説明会や講演会、訓練等を行う。 ②職員の事故・不祥事防止については、職員全体で主体的に取り組み、ミスや不祥事の無い職場環境を維持する。	①関係外部機関と連携して、実践的な交通安全教育、防犯教育、防災教育を効果的に実施する。 ①防災用品や防災備蓄品の点検をしつつ、実践的な防災訓練を実施する。 ②定期テストの共通化、情報共有、複数による点検確認作業の徹底等を継続する。	①説明会、講演会、訓練等を効果的に実施することで、交通安全や防犯、防災に関する生徒の知識や理解を更に深めることができ、より安心で安全な学校づくりにつながったか。 ②事故や不祥事防止に取り組むことで、事故や不祥事を未然に防ぐことができ、ミスや事故・不祥事の無い職場環境を維持することができたか。	①避難訓練やDIG訓練など夜間定時制の特色を生かした実践的な訓練を実施した。 ①来年度に向けて、防災用品の検討・予算立てを行った。 ②定期テストの共通化、情報の共有化、成績処理の点検作業を徹底した。当事者意識を持ち防止を継続することができた。	①災害時にはより迅速に行動できるよう、夜間定時制に合った実践的な避難訓練を継続する。 ①引き続き、防災用品についての検討を行っていく。 ②職員の事故防止、情報の共有化、成績処理等での点検作業の徹底を今後も継続する。	・夜間の災害は、帰宅困難な状況に直結します。食べ物や飲料水はもとより、保温の資材や加熱器具、照明器具等も含めて充実させる必要があります。 ・予算の適正な運用により教育環境の充実に努め、定時制独自のニーズを反映した学校運営を推進してもらいたいです。	①実践的な避難訓練やDIG訓練を実施することができた。実際の災害を想定して必要物品について再確認をする必要がある。 ②定期テストの共通化や成績処理の点検作業を徹底した。職員が継続して当事者意識を持つことが重要である。	①防災倉庫の確認などを避難訓練の際に生徒と行い、テントの設営などより実践的な訓練を行う必要がある。 ②成績処理や入選業務など、ダブルチェックを常に行い事故防止をしていく必要がある。

